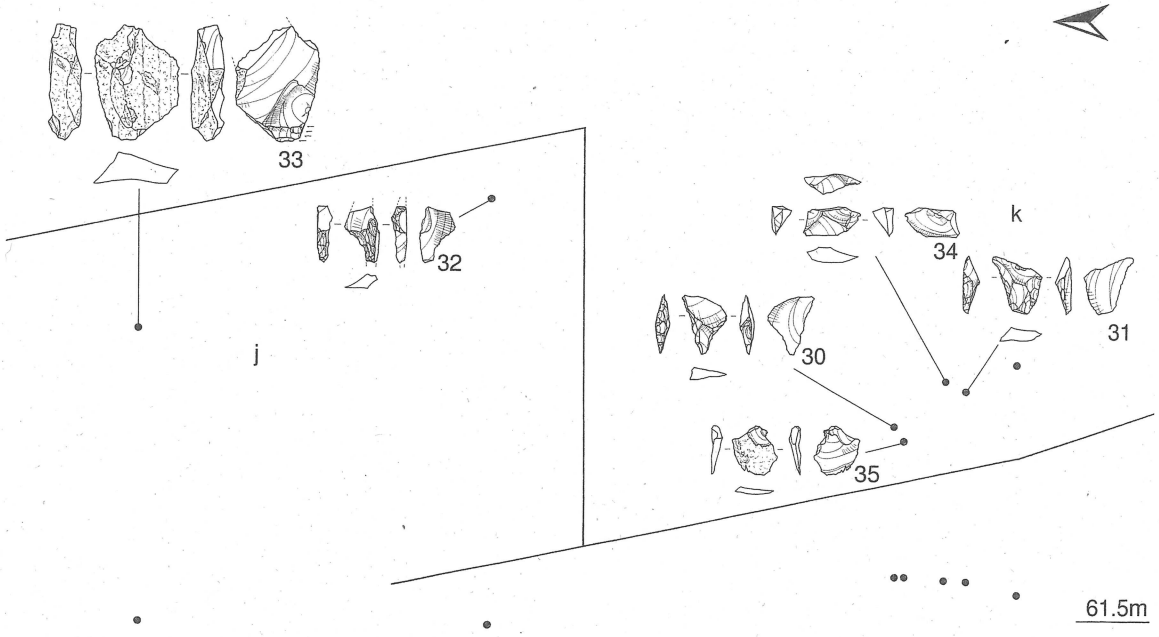
国見町文化財調査報告書(概報)　第6集

石原遺跡Ⅱ

いしはら

Ishihara

－国見中部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査概報－



12区j・k第Ⅵf層石器群（本文5・6頁）（1/40）

2005

長崎県国見町教育委員会

国見町文化財調査報告書(概報)　第6集

石原遺跡 Ⅱ

いしはら

Ishihara

－国見中部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査概報－

2005

長崎県国見町教育委員会

遺跡上空より有明海をのぞむ

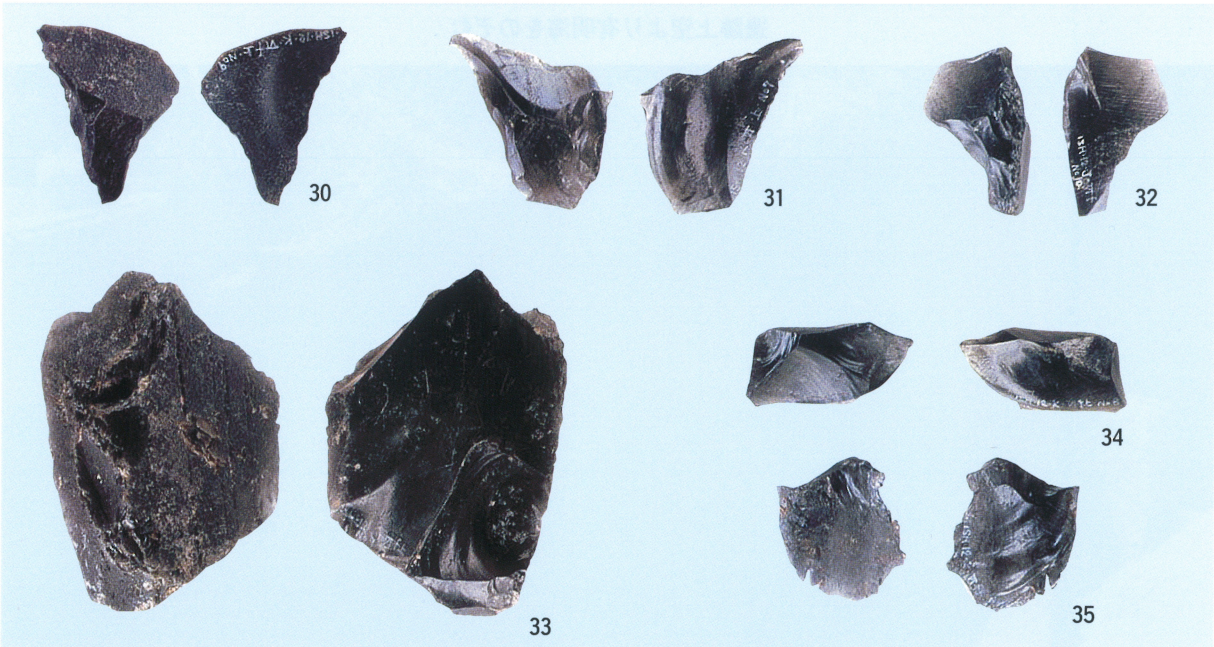
石原12区m土層（東壁・第Ⅵd層まで）

巻頭図版②

石原12区及び土黒西川

調査風景（背後は平成新山）

12区 k 第Ⅵf 層調査風景



第Ⅵ f 層石器群（1／1：本文５・６頁）

発行にあたって

このたび平成14年度・平成15年度に実施しました国見中部地区圃場整備事業に伴う石原遺跡の緊急発掘調査の報告書（概報）を発刊することになりました。

石原遺跡は，国見町のほぼ中央部に位置し，両脇を河川に挟まれたなだらかな丘陵上に所在します。

南側には雲仙普賢（ふげん）岳がそびえ，頂上付近には平成新山と名付けられた溶岩ドームが噴火の生々しさを今に伝えています。北側に目を移せば，眼下には有明海が広がり，佐賀県・福岡県・熊本県までも一望することができます。

これまでの調査において遺跡からは，旧石器時代から中世までの幅広い時代の遺物・遺構が発見されており，その一部はすでに報告（石原遺跡・矢房（やふさ）遺跡2003）済みであります。今概報では石原遺跡12区より検出された旧石器時代の遺物を報告いたします。当地区からは４層に細分される旧石器時代石器群が検出されており，県内でもきわめて稀な資料であります。点数は少ないながら分布や石材に違いが見受けられ，また，遺跡西側に流れる土黒（ひじくろ）西川の流れと共に暮す祖先たちの生活が垣間見えます。今報告では火山灰分析により，指標火山灰である「姶良（あいら）Tn 火山灰」も検出されており，より緻密な石器群の変遷を捉えることができたと考えております。

国見町の緑豊かな農業地帯も，近年の農業基盤整備に伴い変貌しております。このような情勢の中で，祖先の貴重な文化遺産を保護し，これを後世に伝えることは，私たちに課せられた重要な責務であります。

本町では，このような事態に対処するため，遺跡発掘調査を行い保存・保護に努めてまいりました。調査の成果を公開する一つの手立てとして報告書を作成いたしましたが，遺跡の宝庫といわれる本町にとりましては，貴重な歴史と文化を理解するうえで大きな役割を果たすものと期待しております。

最後になりましたが，今回の調査に当たり，地元地権者の皆様，工事関係者の皆様，大学・博物館関係の諸先生方ならびに長崎県学芸文化課の皆様のご指導に衷心より感謝申し上げ発刊のことばといたします。

平成17年３月31日

長崎県国見町教育委員会
教育長　原　宮之

例　　言

1．本報告は2003年（平成14年度～平成15年度）に実施した国見中部地区県営圃場整備事業に伴う長崎県南高来郡国見町に所在する石原遺跡の緊急発掘調査の報告（概報）である。

2．調査は国見町教育委員会が担当した。
発掘調査は下記の期間実施した。
2003年３月12日～2003年６月10日（平成14・15年度）　石原12区～18区，26区～28区

3．調査体制は次のとおりである。

調査主体	国見町教育委員会	教　育　長	原	宮之
	同	教育次長	吉田	正昭
	同	社会教育係長	柴崎	孝光
調査担当	同	文化財調査員	竹中	哲朗
	同	社会教育係	辻田	直人

4．現地での遺構・遺物の実測は酒井由紀子・東文子・林繁美・竹中・辻田が行い，遺物の実測・製図は早稲田一美・辻田が行った。写真は現地調査を竹中・辻田が，遺物写真は辻田が行った。

5．遺構実測の一部は（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

6．自然科学分析は（株）古環境研究所に委託した。

7．空中写真撮影業務は㈱九州文化財研究所に委託した。

8．本遺跡の遺物及び写真・図面等は国見町埋蔵文化財整理室で保管している。

9．本書で用いた方位はすべて真北であり，国土座標は旧日本測地系による。

10．発掘調査にいたる経緯，国見町の概要，地理的・歴史的環境などは国見町文化財調査報告書第３集「石原遺跡・矢房遺跡」において報告済みでありそちらを参照願いたい。

11．現地調査および本書の刊行にあたって多くの方々からご助言いただいた，記して謝意を表します。
長岡信治（長崎大学教育学部助教授），早田勉（古環境研究所），萩原博文（平戸市教育委員会），川道寛（長崎県学芸文化課），渡邊康行（埋蔵文化財サポートシステム），宇土靖之（長崎県有明町総合文化会館），九州旧石器文化研究会，福岡旧石器文化研究会，長崎県教育委員会，（株）野田建設（順不同）

12．本書の執筆・編集は辻田直人による。

目　　次

巻頭図版

発刊にあたって

例言

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

第１章　調査の経緯 …… p 1

第１節　発掘調査にいたる経緯

第２節　発掘調査の方法及び経過

第２章　基本土層 …… p 1

第１節　層　位

第３章　旧石器時代 …… p 3

第１節　概　要

第２節　第Ⅵｆ層石器群

第３節　第Ⅵｄ層石器群

第４節　第Ⅵｃ層石器群

第５節　第Ⅵｂ層石器群

第６節　その他

第４章　自然科学分析 …… p 14

第１節　火山灰分析

第５章　総　　括 …… p 25

第１節　概　要

第２節　出土石器の検討

第３節　まとめ

挿　図　目　次

第１図　石原遺跡位置図(1/20,000)

第２図　調査区配置図

第３図　調査地点の断面図

(断面図の場所は第５図に指示)…… 1

第４図　基本土層…… 2

第５図　12区及び19区・20区位置図(1/1,000)

…… 3

第６図　12区東壁土層図及び石器群・遺構検出

位置図(1/160) …… 4

第７図　12区ｌ(エル)第Ⅵｆ層Ｐ－１(1/20)

…… 5

第８図　12区ｊ・ｋ第Ⅵｆ層出土遺物分布図

(1/40)…… 5

第９図　12区ｊ・ｋ第Ⅵｆ層出土石器(2/3) … 6

第10図　12区ｌ(エル)第Ⅵｄ層出土遺物分布図

(1/40)…… 7

第11図　12区ｌ(エル)第Ⅵｄ層出土石器(2/3)

…… 8

第12図　12区ｍ第Ⅵｃ層中礫群及び出土遺物

分布図(1/40)…… 9

第13図　12区ｍ第Ⅵｃ層出土石器(2/3) …… 9

第14図　12区ｇ・ｉ～ｍ第Ⅵｂ層出土遺物分布

図(1/80)……10

第15図　12区ｇ・ｉ～ｍ第Ⅵｂ層出土石器(2/3)

……11

第16図　12区ｈ・SK01(1/20) ……12

第17図　12区ｈ・SK01出土石器(2/3) ……12

第18図　19・20区(a～e)第Ⅵｂ層出土遺物分布

図(1/160) ……25

第19図　19・20区(a～e)出土旧石器時代の石器

(1/3) ……25

第20図　12区ｇ・ｉ～ｍ出土遺物分布図(1/80)

……26

第21図　19・20区及び12区各層石器群の分布状

況(1/400) ……27

第22図　12区層別出土石器(1/3) ……28

表　目　次

第１表　旧石器時代出土石器計測表……13

図　版　目　次

巻頭図版①　遺跡上空より有明海をのぞむ　石原12区ｍ土層（東壁・第Ⅵｄ層まで）

巻頭図版②　石原12区及び土黒西川　調査風景（背後は平成新山）　12区ｋ第Ⅵｆ層調査風景
第Ⅵｆ層石器群
（1/1：本文５・６頁）

図版１　遺跡上空写真（昭和35年度国土地理院）……36

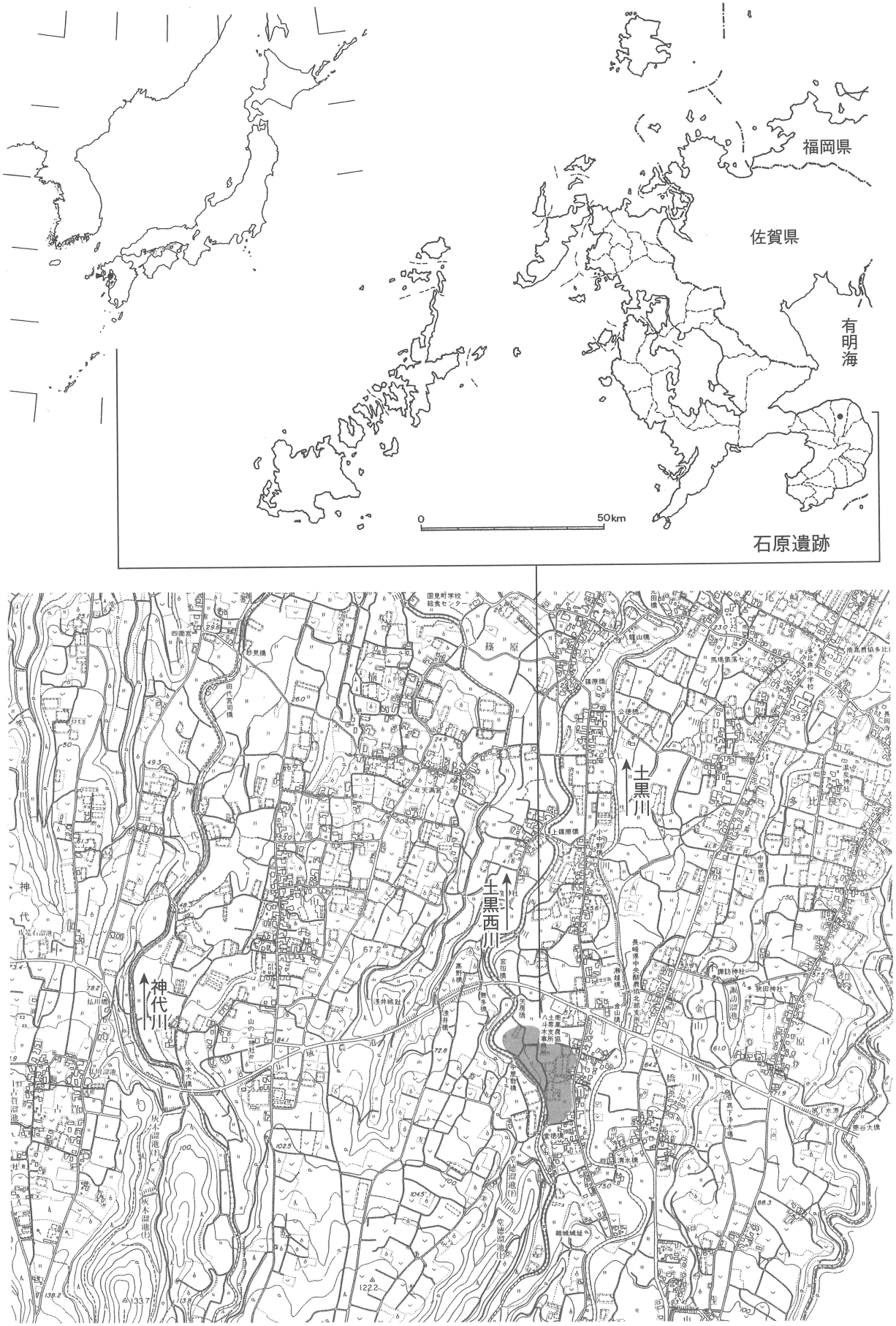
図版２　12区調査風景（南より）……37
12区調査風景（左側が土黒西川）…37
12区ｍ調査風景（第Ⅵｂ層）……37
12区ｋ北西隅石器（第15図49）……37
12区ｈ・SK01検出状況……37
12区ｈ・SK01半裁状況……37
12区ｈ・SK01完掘状況……37
12区ｈ・SK01完掘と東側土層……37

図版３　12区ｌ(エル)第Ⅵｆ層Ｐ－１……38
12区ｌ(エル)第Ⅵｆ層Ｐ－１……38
12区ｌ(エル)第Ⅵｆ層Ｐ－１……38
12区ｌ(エル)第Ⅵｆ層Ｐ－１半裁…38
12区ｌ(エル)第Ⅵｆ層Ｐ－１完掘…38
12区ｌ(エル)第Ⅵｆ層Ｐ－１と東側土層……38
12区ｍ第Ⅵｃ層礫群（北より：第12図アミなし）……38
12区ｍ第Ⅵｃ層礫群（南より：第12図アミなし）……38

図版４　12区ｍ第Ⅵｃ層礫群（第12図アミかけ）……39
12区ｍ第Ⅵｂ層遺物……39
12区ｌ(エル)第Ⅵｄ層遺物……39
12区ｌ(エル)第Ⅵｄ層遺物（第11図36）……39
12区ｋ第Ⅵｆ層遺物（第９図）……39
12区ｋ第Ⅵｆ層遺物（第9図30･35）…39
12区ｊ完掘状況……39
12区ｋ第Ⅵｆ層遺物と西側土層……39

図版５　第Ⅵｆ層遺物（1/1：本文６頁）……40
第Ⅵｄ層遺物（1/1：本文８頁）……40

図版６　第Ⅵｃ層遺物（1/1：本文９頁）……41
第Ⅵｂ層遺物（1/1：本文11頁）……41
SK01出土石器（1/1：本文12頁）…41



第１図　石原遺跡位置図(1/20,000)